

北條時宗公の事績に就いて

山内 裕子

平成二十四年九月十七日

今夏、尖閣諸島、竹島問題の報道を聞きて憂ふ。北條時宗公は鎌倉時代、元寇を退け我國の獨立を護り給ひし恩人なり。公の菩提を祀る圓覺寺の朝比奈宗源老師『時宗公を鑽仰する』を讀む。

十八歳にて執權の重職に就き三十四歳にて逝去し給ふ公は大蒙古の武力と外交の姿勢に屈せず。二大戦役にて與へし打撃は蒙古に全世界制覇の野望を抛棄するに致らしめ、遙か羅馬も侵略を免れけり。北條氏累代の善政、公の人格器量の賜に加へ、我祖先擧げて愛國心、武勇を發揮せられたり。

而して六百年後、明治三十七年に到り、明治天皇は公を従一位に昇叙せられ其の功を賞され給ふ。時まさに日露戦争開戦一年目なり。墓前にて讀み上げられし策命文は次の如し。

「天下の天命におはせ、故正五位下相模守北條時宗の墓前に宣はくとのたまへる。汝、命は文永の昔、蒙古國王我國を窺ひ、國內みな驚き騒ぎ、天皇のいたく大御心を惱ませ給へる事を畏こみ奉り、彼國より獻れる牒状を卻けて、其無禮を責め、使者を罰なひて、皇國の稜威を恐れましめ、弘安四年、許多の敵等、海を渡りて西國に寇するに方り、國々の將士に仰せて防ぎ戦はしめ、天下の安きも危きも、一向に其我身に負ひ持ちて仕へ奉り、宸襟を安め奉りし勳功を褒め給ひ、愛で給ひ、今後特に従一位を贈り、位記を授けたまふ。是を以て神奈川縣知事従三位勳三等周布公平を差し使はして、此の如くの状を宣給くと宣へる。」

宋國より招聘したる無學祖元師を敬愛し給ふ信心篤き公は、弘安の役の後、戦病歿せし同胞の靈、並びに我國の敵なれど不幸にも命捨てし敵將兵の靈併せて十萬を弔はむと願ひ、師を開山として圓覺寺を建立し給ふ。「怨みは怨みによつて鎮まらず。怨みは只怨み無きによつて鎮まる」、佛教の大慈悲の心とは斯くなるものか。

圓覺寺に參りし折、我國の興亡を一身に荷ひ外敵と戦ひ、護國救民に渾身の努力を盡し給ひたる御二方の御心勞を偲び奉り御魂に拜禮す。

無學祖元師、寂して敕により佛光禪師の諡を、後に圓滿常照國師の號を給はる。